

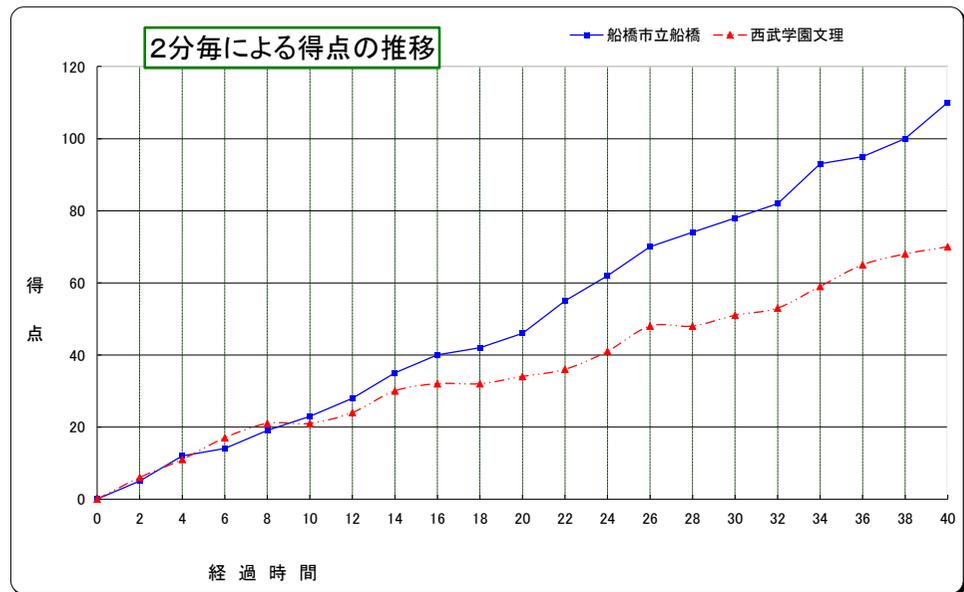
平成28年度第70回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会

平成28年6月5日(日)
深谷ビッグタートル
Aブロック準決勝

チームA			チームB
船橋市立船橋 (千葉)	110	{ 23 1st 21 23 2nd 13 32 3rd 17 32 4th 19 }	70
			西武学園文理 (埼玉)

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロック ショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	石塚 周太	13	2	4	3	4	1	2	4	0	2	0	2	0	2
5	田村 伊織	9	0	0	3	6	3	4	0	3	6	0	3	1	0
6	増田 修大	15	0	0	6	7	3	4	2	1	2	3	3	0	2
7	赤穂 雷太	33	3	4	9	10	6	7	3	6	15	0	2	0	2
8	相川 大和	8	0	1	4	7	0	0	4	0	3	1	2	1	2
9	富澤 春輝	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	畠山 功	0													
11	島田 舜太	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
12	兼重 パトリック	0													
13	保泉 遼	19	1	8	8	13	0	0	1	1	4	3	7	0	4
14	庄司 理宇	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	三上 颯斗	0													
16	野崎 由之	13	2	6	2	6	3	4	0	4	3	3	3	0	5
17	大川 颯斗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
18	大澤 響生	0													
コーチ	近藤 義行									0	7				1
		110	8	23	35	53	16	21	14	15	42	10	22	2	20
		確率	34.8%		66.0%		76.2%			計 57					

番号	氏名	得点	3P		2P		FT		反則	リバウンド		スチール	アシスト	ブロック ショット	ターンオーバー
			成功	試行	成功	試行	成功	試行		OF	DF				
4	上原 敬太	9	0	8	4	8	1	3	1	0	2	3	6	0	3
5	大野 力	20	0	0	10	20	0	1	2	3	3	1	1	2	0
6	渡邊 陸	16	2	14	4	7	2	2	2	1	8	2	2	1	1
7	山口 裕毅	8	2	11	1	3	0	0	2	0	0	2	0	0	2
8	星野 太我	12	1	3	4	7	1	1	5	4	2	1	2	0	4
9	坪田 悦正	0													
10	砂見 悠吏	2	0	0	1	3	0	0	2	1	0	0	0	0	0
11	荒井 響斗	3	0	0	1	1	1	2	0	2	3	1	0	0	3
12	田島 悠斗	0													
13	後藤 文哉	0													
14	成瀬 和哉	0													
15	園田 開	0													
16	中尾 圭希	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
17	田中 巻平	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	谷原 悠仁	0													
コーチ	大久保 英人									4	2				1
		70	5	37	25	49	5	9	15	15	20	10	11	3	16
		確率	13.5%		51.0%		55.6%			計 35					



戦評

今大会優勝候補の一角である市立船橋と、昨日の準々決勝で逆転勝ちをし、勢いにのる西武文理の対戦である。

第1P、両チーム共マンツーマンディフェンスでスタートする。市立船橋#5のインサイドの得点で始まる。西武文理もセンター#5のポストプレイですぐに返す。市立船橋#16の3Pシュートが決まれば、西武文理#8の3Pシュートで応戦し、ハイスコアリングな展開が予感される。市立船橋は速い展開で攻撃を仕掛け、#13、#6のジャンプシュートが高確率で決まる。対する西武文理もガードプレイヤー#4のドライブインからの合わせと、#6の速攻からのレイアップシュートで得点し、見応えのある試合展開となる。

第2P、スピード感のある展開で、西武文理は#8の速攻からのレイアップで流れを引き寄せる。しかし市立船橋は#7が3Pシュートを2本決め流れを渡さず互角の戦いになる。しかし中盤から市立船橋#5がオフェンスリバウンドをゴールにねじ込むと徐々に市立船橋にゲームの流れが傾いていく。#13の3Pシュート、#8のジャンプシュートが決まり、点差を広げていく。対する西武文理はシュートの確率が上がらず得点できない。#7が2本3Pシュートを決めるが、流れは市立船橋のまま前半を終了する。

第3P、市立船橋の高さを生かしたプレイが目立ってくる。#5と#7のハイロープレイからのバスケットカウントでリードを広げていく。さらに#13のドライブインシュート、速攻からのレイアップシュート、#4、#7の3Pシュートで得点を重ねる。西武文理は#5がジャンプシュートを決めるも、外からのシュートが決まらず得点できない。終盤に西武文理#4がドライブインからシュートを決めるが、点差を縮めることはできない。

第4P、何とか点差を縮めたい西武文理であったが、試合の流れを変えることはできない。市立船橋#13のドライブインシュート、#5、#7のインサイドでの得点で加点していく。西武文理も#5がポストプレイでバスケットカウントにし、粘りを見せる。オールコートマンツーマンでボールを奪い、得点する。最後まで粘りを見せるが点差を縮めることはできない。結局総合的に勝る市立船橋が危なげなく勝利し、決勝進出を決めた。

記録者: 祐木 毅

Ref	大庭 英裕	1st U	二宮 隆二	2nd U	廣瀬 俊昭
-----	-------	-------	-------	-------	-------